

《履修上の留意事項》体調不良等により講義を欠席する場合は、担当教員にメールで事前に申し出ること。
 事前学習課題を行ったうえで受講すること。
 効果的な学習方法を習得するための学習方略を積極的に利用すること。
 講義内課題は成績評価の対象となるため、友人や先輩に相談せず個人で取り組むこと。不正が疑われる場合は評点を「0」とする。

《担当者名》柳田早織 s.yanagi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

発声発語障害のうち、機能性構音障害、吃音、音声障害の症状、評価・診断方法、治療法について学ぶ。

【学修目標】

<一般目標>

機能性構音障害、吃音、音声障害について、その症状、評価・診断方法、治療法を理解する。

<行動目標>

1. 機能性構音障害の定義と種類およびその特徴について説明できる。
2. 機能性構音障害の評価法について説明できる。
3. 吃音の定義および特徴について説明できる。
4. 吃音の評価法について説明できる。
5. 音声障害の定義と種類およびその特徴について説明できる。
6. 音声障害の評価法について説明できる。
7. 機能性構音障害、吃音、音声障害の治療法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	機能性構音障害	機能性構音障害にみられる構音の誤り 発達途上にみられる誤り 異常構音	柳田早織
2 }	機能性構音障害	評価・診断 情報収集 構音検査 結果の分析	柳田早織
3			
4	機能性構音障害	治療の概念、原則	柳田早織
5	機能性構音障害	訓練プログラムの立案	柳田早織
6	機能性構音障害	誤り方・音別訓練方法	柳田早織
7	吃音	定義、発生メカニズム、吃音症状	柳田早織
8	吃音	検査・評価、訓練・指導	柳田早織
9 }	音声障害	検査・評価 喉頭内視鏡検査 問診 聴覚心理的評価 音響分析 空気力学的検査 声の高さと強さの検査 自覚的検査 その他	柳田早織
10			
11 }	音声障害	音声障害の種類と特徴	柳田早織
12			
13	音声障害	音声障害の治療 外科的治療と薬物治療	柳田早織
14 }	音声障害	音声障害の治療 音声治療	柳田早織

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15			

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（60%）、講義内課題（20%）、小テスト（20%）

【教科書】

大森孝一 編 「言語聴覚士のための音声障害学」 医歯薬出版 2015年
 城本修 他 編 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」 医学書院 2021年
 日本音声言語医学会 編 「新編 声の検査法」 医歯薬出版 2009年

【参考書】

廣瀬肇 著 「音声障害治療学」 医学書院 2018年
 阿部雅子 著 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版」 金原出版 2008年
 日本音声言語医学会・日本喉頭科学会 編 「音声障害診療ガイドライン2018年版」 金原出版 2018年
 城本修 他 著 「STのための音声障害診療マニュアル」 インテルナ出版 2008年
 小澤恵美 他 著 「吃音検査法 第2版 解説」 学苑社 2013年
 深浦順一 他 著 「図解言語聴覚療法技術ガイド 第2版」 文光堂 2022年
 益田 慎 他 著 「Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学」 MEDICAL VIEW 2022年

【備考】

視聴覚教材については、Glexaを利用して提示する。

【学修の準備】

予習として、教科書等を用いて配布資料の穴埋めなど事前課題に取り組み、学習目標とキーワードを設定すること。（80分）
 復習として、自己調整学習状況を振り返り（自己省察）、改善のための具体的学習方略を列挙し実践すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、機能性構音障害、吃音、音声障害のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。